

一枚の写真

信 樂 慧



この写真は、5月13日 降誕会の法座にて二階堂和美先生に「歌で味わう大悲心」というテーマで話していただいた際のものでした。二階堂先生は、スタジオジブリ作品「かぐや姫の物語」で主題歌を歌われており、祖父信楽峻鷹作詞、富田和代さん作曲の「み佛は」「お念仏」「わが生命」という3つの曲をCDにする際に歌っていただいた方です。

安楽寺寺報

閑 光

第107号 降誕会号

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
TEL: 0823-21-7561

を伝道したいと思っています。なぜなら私は仏教の理論を知った時に今まで思っていた、浄土真宗に対するイメージが全く変わり、これこそが自分の追い求めていたものだったと確信したため、それらを皆さんに伝えたいと思っています。

さて、降誕会において、二階堂先生に歌ってもらった「み佛は」「お念仏」「わが生命」の曲には「まよい」という共通の概念が含まれています。この「まよい」は浄土真宗において大切な考え方です。仏教では、まよっているから苦しんでいる、という話がよくされます。

では、私たちはなぜ、どのように、まよっているのでしょうか？例えば「み佛は」の歌詞にある「いつわり多きうつし世に」という言葉があらわしています。これは、この世は嘘の世であることを言っています。では、嘘とはなにか？それは、私たちが自分の偏見や価値観、自分の色眼鏡を通してしか現実を見ることができない、自分勝手ないつわりの世に生きているということを行っています。コップのジュースを見て「もうこんなに少ない」と見る人も「まだこんなにある」と見る人もいます。これはジュースに限らず日常生活のあらゆるところでそれぞれ感じ方が違い、それによって幸せかそうでないかが決まるという話です。そして、それが一生続いて

いけば人生を左右してしまうと思います。

では、まよいから抜け出すためにはどうすればいいのでしょうか？お釈迦様は八正道という8つの事を実践しなさいと言われました。その一つが正見といい、物事を正しく見るといふ実践になります。

物事を正しく見るとは、自分が偏見で世界を見ている、自分が見えていない範囲があると理解することです。ただ日常生活の中で気づくことは難しいので、気付けるようになる習慣を作ることが大切だと思えます。例えば、食物や作ってくれた方への感謝を感じる習慣として、食前食後の言葉を唱えたり、毎日お仏壇に向かってお経、お念仏を唱えるのも、日常生活の中で気づくための大事な習慣です。

私はこのことを理論的に理解し、実践していきたいと考えていますが、感覚やイメージによって理解される方もいらっしゃると思います。降誕会では、二階堂先生のお話はまさに仏教をイメージや感覚で伝えることが出来るものでした。お話を聞いて素晴らしい演奏と歌声だったということはもちろんありますが、音楽を通して、仏教を伝えるというのには、真似できない素晴らしい伝道の方法だと思いました。

近年多様性が大切にされてきています。同じ伝道の方法でなくても、多くの人が仏教を本当の意味で理解できるならば、仏教の伝道方法も多様化し、様々な人に届くことが重要なのではないかと私は思います。

今回聞いた、二階堂先生の法話は、私にはまねできない素晴らしい伝道の方法でした。

私は理論を大切に、分かりやすく日常生活に活かせるような話をし仏教

安楽寺マンガ通信

その57 信楽めぐみ作

最近、心の健康が重要視されてきている時代になってきました。

自分の心は強いから大丈夫！と思ってる人も次の「K6」という質問票を回答してみてください。




K6 質問票


過去1か月間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか？
全ての項目の当てはまるものに○をつけてください。
○をつけた箇所の点数をすべて足してください。

項目	0点 全くない	1点 少しだけ	2点 ときどき	3点 たいてい	4点 いつも
神経過敏に感じましたか					
絶望的だと感じましたか					
そわそわ、落ち着かなく感じましたか					
気分が沈み込んで、何か起こっても気分が晴れないように感じましたか					
何をすることも骨折りだと感じましたか					
自分には価値のない人間だと感じましたか					


K6質問票で合計点が5点以下の人は、今は心の健康が保たれている状態です！



合計点が6点から9点の人は、要観察です！心の健康が崩れかけており、ストレス解消を心掛けてください！



合計点が10点以上の人は、要注意です！心の健康が崩れています。うつ病などの心の病気があるかもしれませんので病院に行ってみることをお勧めします。



今回の、K6質問票は心の健康の確認方法の一つにすぎません。心の健康が崩れてしまっても誰にでも起こりうることです。そのためにも、まずは症状が悪化する前に自分が疲れていることに気づき、認めることが大切です。

そして、疲れている時に自分を癒す方法を知っておくことも重要になりますので、心の健康のために自分が楽しいと思うことをたくさん探してみてください。



ちょっと脳トシ ぼろぼろになった漢字を 頭の中で組み立てよう！

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

今号の1面や2面に書かれている同じことを伝えるにも人によっては伝える手法が違ったり、同じ言葉でも捉え方が人によって異なってきます。個人が尊重される時代になりそれをより感じています。一人一人が主張できる世の中になっていることは良い事だと思えますが、それにより、考え方や価値観が異なる人が集まると、「コミュニケーション」の部分で課題が出てくることがあると考えられます。物事を正確に伝えることが難しくなったり、本来の意図とは違うように受け取られてしまったり、今まで以上に思ったことが思った通りに伝わらなくなりました。

多様化する社会において、相手の思いをおしはかる能力は今以上に意識し、対話を大切にしたいと思えます。

めぐみ

編集後記

新しい領解文問題

信楽 晃仁

今年は、親鸞聖人御誕生八五〇年の年で、京都本願寺ではこの春、全国より参詣者を集めて慶讃法要をお勤めされました。

当山安楽寺でも記念すべき宗祖降誕会として、シンガポールで僧侶でもある、大竹大龍寺の二階堂和美先生に来て頂き、「歌で味わう大悲心」と題して、コンサートを開催いたしました。

そのようなお祝いムードの中、浄土真宗本願寺派内では、一つの問題が持ち上がっています。それは今年一月の御正忌報恩講に、御門主が総長(※1)、勸学寮頭(※2)と連名の上「新しい領解文(※3) (真宗のみ教え)」についての消息なるものを発布されました。それは今までの領解文に代わる新しい領解文として、全国の僧侶、門徒の皆様、様々な法要で、口に出して唱和して欲しいというのです。ここに至るには、それなりの手続きを経てきたでしょうに、発布後、多くの学者、僧侶から反対の声明が出されました。問題は数点ありますが、一番の問題は、浄土真宗の御法義を間違つて受け取りかねない表現が数点所あることです。そうした問題を指摘して「新しい領解文を考える会」という有志の会が声明を出しています。他にも色々な先生方が、それぞれ「新しい領解文」は今一度考え直さなくてはならないと、声明をあげておられます。

この領解文についてはこれ以上の詳しいお話はここではできませんが、詳しく知りたい方がおられましたら、安楽寺に資料もありますのでいつでもお尋ね下さい。

さて、そこで皆さんにお伝えしたいのは、本願寺から送ってくるものや、新聞などで、「新しい領解文」なるものをご存じの方もいらっしゃるかも知れません。しかし今はそれはしばらくの間、横に置いてきまして、この問題の行方を静観していきたいと思えます。領解文と言えば、二〇〇年以上も、私たちの先祖が口にしてきた法語です。多くの方が「もろもろの雑行雑修自力の心をふりすて云々」と口にしてきました。それを問題があると言われて「新しい領解文」におきかえて次の代に伝えることは大きな問題です。とはいってものんだんと昔の領解文では、言葉が古めかしく現代にマッチしなくなっているというのも、本当のところでは、

そこで、皆さんにおすすめるのが、安楽寺の先代、信楽峻磨前住職が書き残してくれた「信心の言葉」(別紙)です。安楽寺生活聖典にもありますが、これをどうぞ日々の仏参時に口にしなげら、自らの信心を問うていられることをおすすめています。

先年、前住職の書籍「真宗の大意」は英語に翻訳され、アメリカで多くの人に読まれています。すると先日ブラジルから電話が入り、ブラジルの人に前住職の教えを伝えたいが、その為に「真宗の大意」をポルトガル語に翻訳して

出版し、南米の寺院に配りたいというのです。是非よろしく願いますとお願ひしたことです。

先般G7が広島で開催され広島から世界にメッセージが発せられました。呉から世界に広がる親鸞聖人の教えがあります。折角のご縁です。その前住職の言葉に是非触れてみて下さい。

当安楽寺ではこの「信心の言葉」を毎法座唱和して、自らの信心を問うています。是非お読みいただき、ご感想などいただけると、ありがたいことです。

※1総長 宗門に宗会という国会のようなものがあり、その長が総長。

※2勸学 浄土真宗の教学の研鑽をきわめた指導的立場の僧侶に与えられる称号。その中の長を勸学寮頭という。

※3領解文(りょうげもん) 浄土真宗の教えの受け取り方(領解)をあらわした文章。(聖典参照)



お念仏のしずく

阿弥陀仏とは…



浄土教においては、阿弥陀仏という名の仏が説かれますが、まずこの仏について申します。阿弥陀仏とは古いインドの言葉では、アミターバアミターユスと表現され、そこから阿弥陀(アミタ)という言葉が生まれましたといわれます。前にも申しましたが、その「ア」という語は否定の接頭語で、打ち消しを意味します。また「ミタ」という語は、量られます。計算された、という意味です。したがってアミタとは、量られない、無量のということです。そして「アミタ」というのは光明という意味をもちます。また、「アミタ」というのは寿命を意味します。ですから、阿弥陀仏とは、限りない光明と限りない寿命を意味します。ですから、阿弥陀仏とは、限りない光明と限りない寿命をもった仏ということになります。

「真宗の大意」

暮らの中の仏教語

「慈悲」(じひ)

だれ知らぬ人もない言葉ですが、真意は意外よく知られていないようです。『新・仏教辞典』には次のように解説されています。

「慈悲」(マイトレーヤ、カルナー)の訳。マイトレーヤはマイトラ(友)という語から作られた抽象名詞で、最高の友情ともいうべきもの。特定の人に対してではなく、全ての人々に友情を持つことが(慈)である。またカルナーの原意は「呻き」であり、人生苦に呻き声を上げることである。人生の痛苦に呻き嘆いたことのある者のみが、苦しみ悩んでいる者を真実に理解でき、その苦しみに同感し、その苦しみを癒やすことができるのであるが、その同苦の思いやりを悲と呼ぶのである。神の恩寵のように、高きから低きに向かうのではなく、常に同じ高さにあるもの同志のふれ合いを重ねるところに、仏教の慈悲の大きな特徴がある。」と。

このように、「友」とか「友情」とかいう思想が仏教倫理の核をなしていることは、大いに現代人の共感を呼ぶものだと思います。「慈悲」とは、普通、富める者が貧しい者へ、強い者が弱い者へ、なすけをかけてやる。このように受け取られています。そうではなく、対等な、友情なのです。そのところが、実にうれしく思われます。

安楽寺法要案内

--永代経法要--

日時 6月24日(土)昼座
6月25日(日)朝座・昼座
講師 川尻真光寺
寺西龍象先生
講題 遠く宿縁を慶べ

--歓喜会法要(合同仏参)--

日時 8月13日(日)10:00~11:00
8月14日(月)10:00~11:00
講師 自勤
講題 先祖を訪ねて

--彼岸会・聴石忌法要--

日時 9月24日(日)朝座・昼座
講師 広島市法光寺
築田哲雄先生
講題 師よりの頂きもの

時間 朝座10:00~・昼座13:00~
会場 安楽寺本堂

※新型コロナウイルスが感染拡大した場合、急遽中止する場合があります。